

# 寺報

令和7年(2025)紫陽花号第161号(1)

発行 福島市田沢字寺前18  
長秀院・仲興寺  
TEL 024(548)1240  
FAX 024(573)1202  
ホームページ <http://www.choshuin.jp/>  
e-mail [choshuin@rainbow.plala.or.jp](mailto:choshuin@rainbow.plala.or.jp)



発行責任 渡辺 祥文  
編集責任 渡辺 秀憲

五月十八日、今年第一回目の「たごわさんず」が長秀院駐車場にて開催されました。毎週日曜日午前九時より、田沢町会や有志の協力のもとに開かれますので、ぜひ足をお運び下さい。



コロナ禍によって中止していた写経会ですが、今年四月より再開しました。毎月第三土曜日、長秀院慈雲閣にて開催しております。



## 案内板

長秀院

○盂蘭盆会法要

令和七年八月九日(土)

午後三時並びに五時より

仲興寺

○盂蘭盆会法要

令和七年八月十三日(水)

午後四時より

### 長秀院写経会日程

(午後二時より)

令和七年

・六月二十一日(土)

・七月 十九日(土)

・八月二十三日(土)

・九月二十七日(土)

(八月はお盆のため、九月は秋彼岸のため、第四土曜日といたします。)

令和七年 六月

山主 敬白



# 雲水日記 その十九

渡辺 秀憲

紫陽花も咲き梅雨を感じるようになってまいりました。皆さんいかがお過ごしでしょうか。

前回は、修行道場における怪我と通院事情についてでした。今回は二回目の「衆寮」と「秋上山」についてです。

私がいたころの永平寺では、一年目の修行僧はまず必ず「衆寮」に配属されます。そこで数週間ほどすごしたのち「知庫寮」などの他の部署に配属されますが、そこで三カ月ほどすごしたのち、また「衆寮」に再び配属されるという仕組みがありました。

永平寺の春上山は二月～三月にかけて、約六十人が五～六班に分かれて上山してきます（上山した班ごとに「一番上山」「二番上山」と呼ばれます。私は四番上山でした）。各班が順番通りにほかの部署に転属するといつか

は衆寮がいなくなるため、また一番上山から順番に衆寮のお役目を務めるのです。

また、私が衆寮に戻った十月はまた異なる役割がありました。新しく上山してくる「秋上山」への手本となることです。

曹洞宗の修行道場は秋季の上山が認められています。永平寺では例年十人弱で、班に分けられることは稀です。春上山と同じく、まず必ず衆寮に配属されるため、ちょうど私の二回目の衆寮配属と同時にあったのでした。

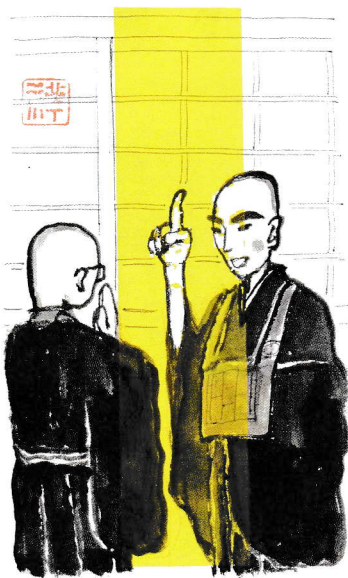
ところで、修行僧にとつて二回目の衆寮は憂鬱なものです。衆寮は全山に法要や時間を知らせる鳴らし物を扱うため、ごまかしも融通も利きません。鳴らすのを少し遅れただけで、全山から確認の電話がかかってくるのです。他の部署に比べて怒られる頻度はとても高いのです。

また、曲がりなりにも半年も修行生活を送れたという経験が、一度目に比べて緊張感を失わせていました。数週間もすれば次の部署に行けることもわかっており、「早く配置換えにならないかな」と集中の欠いた日々を送っていました。

ある日の掃除の時間の後、秋上山の修行僧が並んでいる前で、私たち春上山の面々が並ばされました。私たちを指導する四年目の修行僧が、窓の棧を指でつうつとなぞります。指の先には埃が乗っていました。

「最近たるんでいませんか。君たちの背中、秋上山の皆さんが見ていますよ」

恥ずかしいやら情けないやら、いろんな感情が腹の中で渦巻きます。気のゆるみを先輩や後輩に正されながら、修行は続いていくのです。





## 二〇二五年問題の その年を迎えて(Ⅱ)

### 少子高齢化社会の現実

昨今の米不足や物価高騰、仕事の人手不足・人手不足からの廃業など、二〇二五年問題と関連のある事象が数多く目立つようになりました。誰しも安定と安心を望んで暮していますが、少子高齢化社会は否応なしに現実となってきました。特に農業問題などは、長い時間の積み重ねによってなりたっていますから一朝一夕に変えようありません。長い経験と知恵を必要とし天候という自然を相手にしなければなりません。「農業工場」のようなものも出現していますが、米のような主食を工場生産はできていません。後継者がいない、若者がいないのです。東京などの大都市部以外は皆高齢者社会です。働く若い人が少なければ税収も下がってきます。行政サービスも限界に達します。ロボットの導入はもちろんのこと高齢者も働かないとたち行かない社会となっています。

社会のあり方もこれまで通りにはならないですし、他人事ひとごととして避けて通れない時代に入ったということでしょう。

### 「二〇二五年七月五日」の予言

最近、「二〇二五年七月五日」の予言がネットを中心に注目され、不安が重なり、日本に大災害が来ると、外国人観光客まで日本への来日をキャンセルしていることが大きな話題になっています。これは女性漫画家のたつきりょうという人が漫画のタイトルで東日本大震災を予言的中させたということが有名となり、その後、大災害が二〇二五年七月五日に起きると予言したことによって、ジワジワと皆に注目されているのです。この予言の内容容というものは、七月五日にフィリピン沖で大噴火のようなものが起き、大津波が日本をおそい大災害となるというものです。東日本大震災を漫画の表紙で予言し現実になったことで、若者を中心に注目されている人です。

環太平洋地域が地震の活動期に入ったのは確かですが、予言も流行の一つです。一人一人のきちんとした考えが大切であり必要です。

## 長秀院護持会 仲興寺護持会

### 宗費完納

毎年五月下旬、曹洞宗本部(宗務庁)へ「宗費」を納入しています。これは一年に一度の曹洞宗への各寺院からの上納の恩金(曹洞宗への税金納入という表現をする人もいます)を納入することです。

今年も長秀院・仲興寺、それぞれの護持会より「宗費」を預り納入いたしました。ありがとうございました。

宗費は、曹洞宗・西大本山、各県の宗務所(六十六の行政区)教区(市町村単位に近い。福島県は二十二の教区に別れている)に分配され活動運営費となっています。もとは檀信徒の皆様からの護持会費です。今年も完納ありがとうございました。



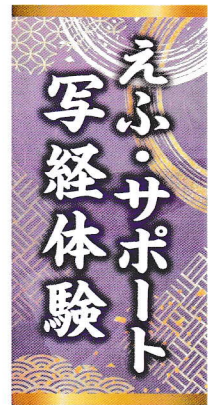




四月二十二～三日にかけて、福島県警察学校の生徒さん達が来山され、例年の坐禅の体験をされました。コロナ禍から実に五年ぶりの長秀院での実習でした。



一般財団法人「えふ・サポート」様のご依頼を受け、会員様に向けた写経・坐禅体験を行いました。



五月十六日、蓬萊東小学校の三年生が、長秀院に社会見学にいらつしやいました。いただいた質問をもとに、寺のなり立ちや、歴史についてお話ししました。



●寺報援助金一万円

高橋成子様

★ありがとうございます★

## おねがい

電話 〇二四一五四八一二四〇  
FAX 〇二四一五七三一二〇二

住職が法務で不在となることも多くありますので、ご来山前にお電話等で必ず確認をお願いいたします。

ご迷惑をおかけいたしますが、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

現在改めて修復のため調整しているところですが、しばらくお時間を頂戴したいと存じます。

なお、メールでご連絡をいただいた方がおられましたら、電話またはFAXにてご連絡を頂きたいと存じます。

未だに、当山パソコンの不調により当山メールアドレスへの送受信が不調となっております。お詫び申し上げます。

メールの送受信に  
関するお詫び

●境内草刈奉仕

長秀院有志会様  
仲興寺有志会様